

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

～ 不安の時代に生きる 8つの市民像 ～ 「横浜市民生活白書 2009」を発行

【横浜市民生活白書 2009 の特徴】

■ 不安の時代に生きる 8つの市民像とその背景を分析

2008年に実施した横浜市民意識調査の結果から、生活上の心配ごとやリスクという視点から8つの市民像を導き出し、その特徴と不安感の背景にある家族や社会の変化を検証しています。

■ 生活不安の増大や格差の実態など横浜市民の生活をさまざまな統計調査データから分析

生活不安の増大や格差の実態を、国勢調査や意識調査など国や横浜市等が行なっているさまざまな調査・統計を活用し、客観的な基礎データを基に分析しています。

■ 多様化する地域の状況を捉え、生活課題に取り組む地域の動きを紹介

より小さな地域エリアでの変化を捉えるため、250mメッシュ統計で地域の特徴を視覚化しています。また、社会変化に対応し、支え手・担い手が減少する市民社会の共同性の再構築を志向する動きを紹介し今後を展望しています。

横浜市民生活白書とは

横浜市民の生活意識や実態を把握し、横浜の都市としての課題と魅力を市民と共有するため、昭和39年から3～4年ごとに発行。今回で12回目。

発売日：6月12日（金）

価格：1,000円（税込）

販売場所：市役所1階 市民情報センター、
市内書店など（裏面参照）



本書の構成

第1章 市民生活の変容 生活不安の増大と格差社会の実態

市民意識調査にみる生活不安

不安の時代の8つの市民像

市民像から見る格差の実態

◎コラム

格差社会と都市コミュニティの形成 [広井良典]

急激な変化に揺らぐ雇用

小規模化する世帯とその背景にあるもの

生活を支える住まいの状況

子育て・教育 経済的基盤と時間と支える関係の三要素

増幅する健康への不安

高齢者の暮らしと介護

生活保護 増え続ける被保護世帯

◎インタビュー

大都市郊外の変容と「弱い専門システム」[大江守之]

第2章 横浜で暮らしていく

お互いさまねっと公田町団地

南台ハイツの見守り拠点

交流サロン・庄戸

地域の中で子どもを育てる

緑区地域子育て支援拠点「いっぼ」

第3章 『都市・横浜』をみる

人口 横浜にも訪れる人口減少と進む少子・高齢化

産業・経済 急速に変わりゆく経済情勢と産業構造の変化

交通 鉄道路線を中心に高まる横浜の交通利便性

環境・エネルギー 市民生活に直結する地球規模の問題

第4章 地域の多様性にみる横浜

地域からみる横浜の姿 郊外の変容

地域の多様性と18区

地域からの政策形成を

販売場所

○市役所1階 市民情報センター（刊行物サービスコーナー）

○区役所売店（西区、金沢区、栄区役所を除く）

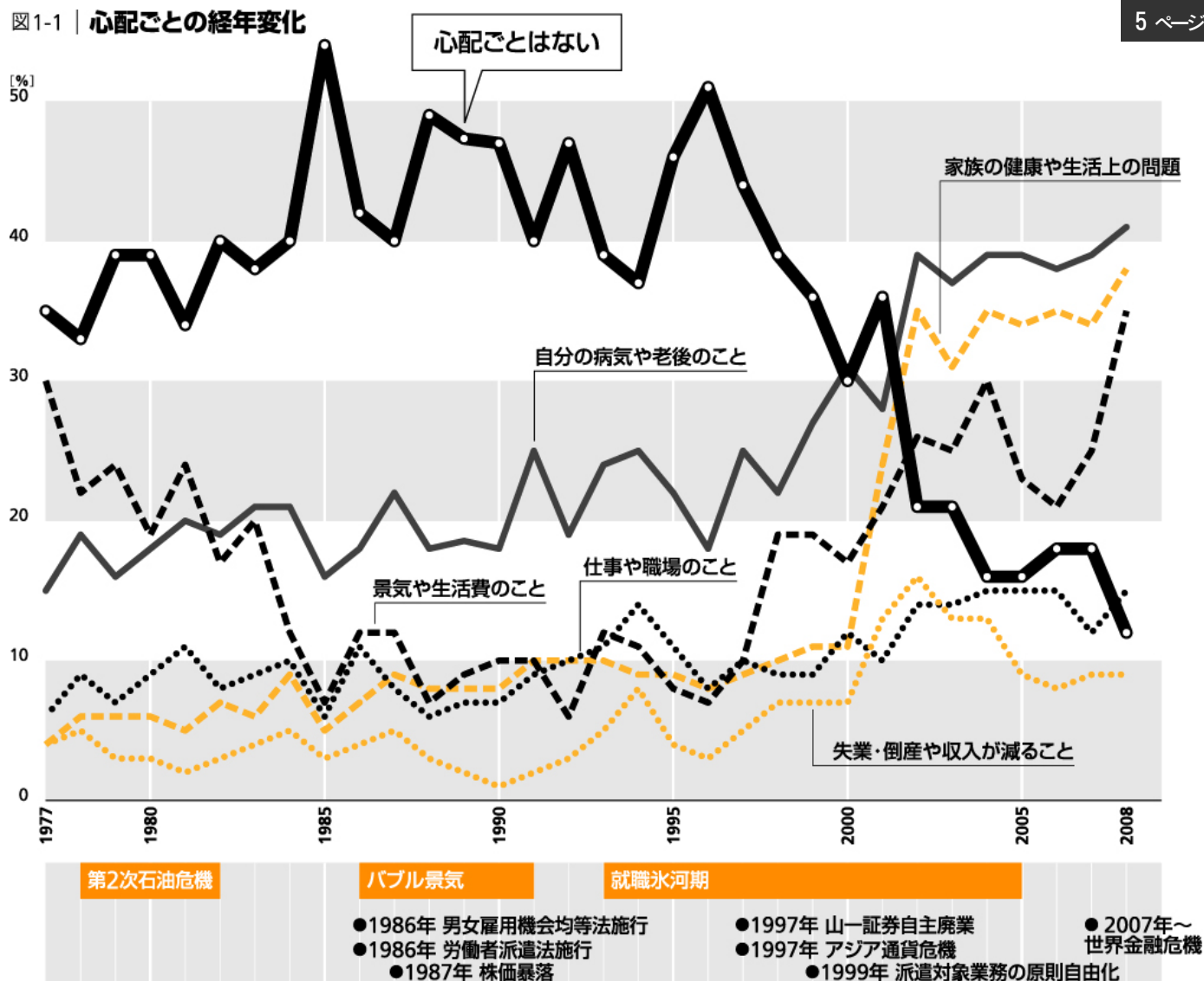
○市内書店 [有隣堂（伊勢佐木町本店、ルミネ横浜店）、紀伊國屋書店（そごう横浜店）、セルテ
芳林堂書店（関内店）、横浜日経社（関内）、政府刊行物サービスセンター（東京都千代田区霞
ヶ関、千代田区大手町）]

○市内主要大学の購買部 [横浜市立大学金沢八景キャンパス、神奈川大学六角橋キャンパス、関
東学院大学六浦キャンパス、横浜国立大学]

「心配ごとはない」とする市民が約 1 割に減少、不安が増大

1977 年以降、およそ 30 年の間の市民の「心配ごとや困っていること」の変化を見ると、第 2 次石油危機、バブル景気とその崩壊といった社会情勢の変化の中でも「心配ごとはない」市民は 3 割から 5 割の間を推移していました。しかし、96 年に 5 割を超えて以降、経済情勢が悪化する中で、2008 年には約 12% まで下がって、およそ 9 割の人が何らかの不安を抱えています。

図 1-1 | 心配ごとの経年変化



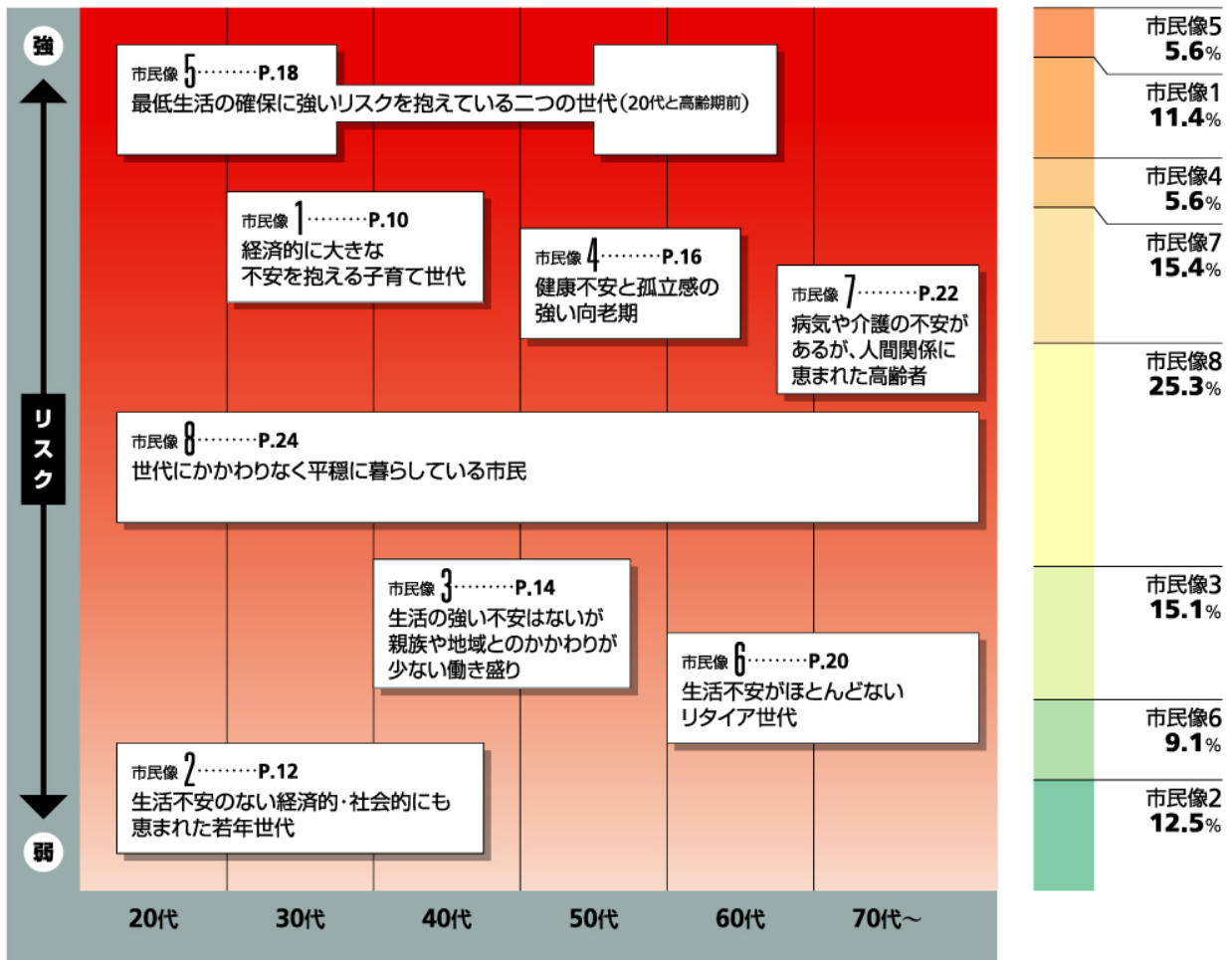
(注)「景気や生活費のこと」は1997 [平成9] 年までは「インフレ・物価高のこと」、「家族の健康や生活上の問題」は2000 [平成12] 年まで「家族の問題や親せきとの関係」としていた。
資料：横浜市民意識調査 横浜市都市経営局

生活に関するリスクなどから浮かび上がった8つの市民像

横浜市民意識調査の質問項目のうち「生活満足感」「心配ごと」「生活に関するリスク」「大切にしている人」「頼りにしている人」を使って分析し、8つの市民像が導き出されました。市民の6割以上は強いリスクを感じることなく生活していますが、一方で、経済的なリスクや健康、人間関係に強いリスクを感じている市民もいます。

図1-12 | 不安の時代の市民像

市民像の割合



8つの市民像

- | | |
|--|--|
| 1 経済的に大きな不安を抱える子育て世代
11.4% | 5 最低生活の確保に強いリスクを抱えている二つの世代(20代と高齢期前)
5.6% |
| 2 生活不安のない経済的・社会的にも恵まれた若年世代
12.5% | 6 生活不安がほとんどないリタイア世代
9.1% |
| 3 生活の強い不安はないが親族や地域とのかわりが少ない働き盛り
15.1% | 7 病気や介護の不安があるが、人間関係に恵まれた高齢者
15.4% |
| 4 健康不安と孤独感の強い向老期
5.6% | 8 世代にかかわらず平穩に暮らしている市民
25.3% |